

平成31年 2月

夜間における横断歩行者の安全性向上に関する研究

平成31年 2月 中村 心

要旨

目的

横断歩道を横断中に発生する交通事故は、重大事故につながりやすく、特に夜間では、ドライバーが横断者に気づかないことに起因する死亡事故が多発している。そこで、本研究では夜間時の横断歩道上の歩行者に対する安全性に着目して、歩行者が横断歩道を渡る際の昼間と夜間の車の停車率の違いを明らかにし、夜間の対策を行っている横断歩道と対策を行っていない横断歩道における停車率の比較を行い、夜間の横断歩行者の安全性向上のための効果的な対策の検討を行う。

方法

本研究では長野市内の様々な交通状況下にある単路部の信号機が無い横断歩道を分析対象として選定し、歩行者が横断する際の車の停車台数と通過台数を昼間と夜間の両時刻で計測して車の停車率をそれぞれ求めた。さらに夜間対策を行っている横断歩道と夜間対策を行っていない横断歩道の車の停車率の昼夜差の比較を行い、どのような特徴があるのか分析を行った。

結論

本研究で分析対象とした横断歩道において行った観測結果によると夜間の停車率は昼間に比べて大きく低下することが明らかとなった。さらに、夜間対策の有無によって夜間の停車率が約10%程度改善されることが分かった。しかしながら、夜間対策を行っている場合でも依然として昼夜の停車率に差が生じているため、今後は他の様々な夜間対策が施されている地点を対象として調査・分析を行いさらなる安全性向上に取り組んでいきたい。

指導教員 高瀬 達夫 准教授